

研究員 の眼

DC でも、国内株式の利確膨らむ ～2025年5月の投信動向～

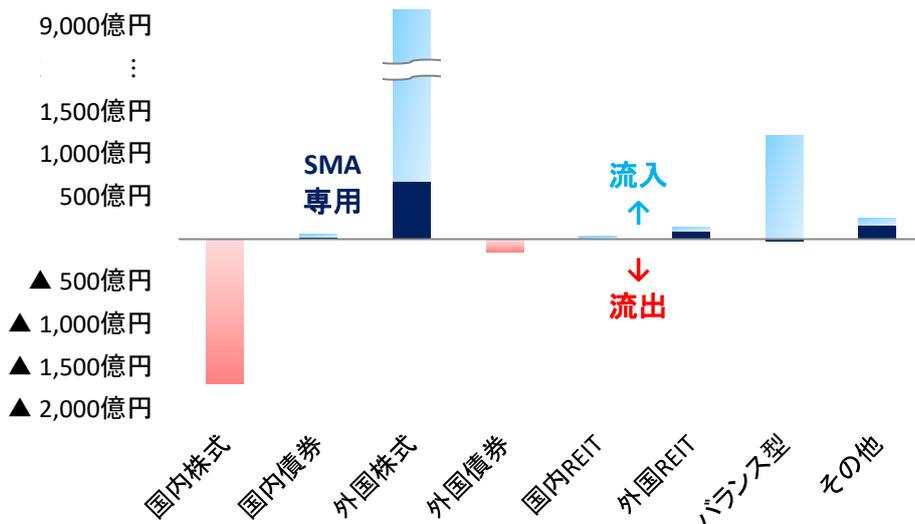
金融研究部 主任研究員 前山 裕亮
(03)3512-1785 ymaeyama@nli-research.co.jp

外国株式ファンドへの資金流入が鈍化

2025年5月の日本籍追加型株式投信（ETFを除く。以降、ファンドと表記）の推計資金流出入をみると、5月は外国株式ファンドに9,200億円の資金流入があった【図表1】。2025年に入って最小だった4月の9,800億円からさらに減少したが、減少幅は600億円と4月の2,300億円に比べて縮小した。

一般販売されている外国株式ファンドをタイプ別に見ても、インデックス型、アクティブ型ともに小幅な減少にとどまった。流入額が、インデックス型は5月に6,400億円となり、4月の6,600億円から200億円減少した。アクティブ型も5月は2,100億円となり、4月の2,400億円から減少となった。

【図表1】2025年5月の日本籍追加型株式投信（除くETF）の推計資金流出入



（資料）Morningstar Direct より作成。各資産クラスはイボットソン分類などを用いてファンドを分類。

【図表2】 2025年4月の推計純流入ランキング

ファンド名	運用会社 (略称)	4月の 流出入	5月の推計 純流入	純資産 5月末時点	5月の 収益率
1位 eMAXIS Slim 全世界株式(オール・カントリー)	三菱UAM	1,889億円	1,620億円	5兆9,301億円	7.1%
2位 eMAXIS Slim 米国株式(S&P500)	三菱UAM	1,726億円	1,420億円	6兆9,474億円	7.4%
3位 インベスコ 世界厳選株式オープン(為替ヘッジなし)(毎月決算型)	インベスコ	955億円	1,029億円	2兆 208億円	9.0%
4位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信D毎月(ヘッジなし)予想分配金提示	アライアンス・B	215億円	275億円	3兆2,070億円	7.9%
5位 ピクテ・ゴールド(為替ヘッジなし)	ピクテ	273億円	237億円	3,150億円	1.8%
6位 楽天・プラス・S&P500インデックス・ファンド	楽天投信	275億円	210億円	5,364億円	7.4%
7位 SBI・V・S&P500インデックス・ファンド	SBI AM	183億円	196億円	1兆9,704億円	7.4%
8位 アライアンス・バーンスタイン・米国成長株投信Bコース(為替ヘッジなし)	アライアンス・B	237億円	180億円	1兆6,252億円	8.0%
9位 iFreeNEXT FANG+インデックス	大和AM	194億円	173億円	5,994億円	12.4%
10位 楽天・プラス・オールカントリー株式インデックス・ファンド	楽天投信	186億円	164億円	3,676億円	7.1%

(資料) Morningstar Direct より作成。ETF、SMA・DC 専用ファンドは除く。

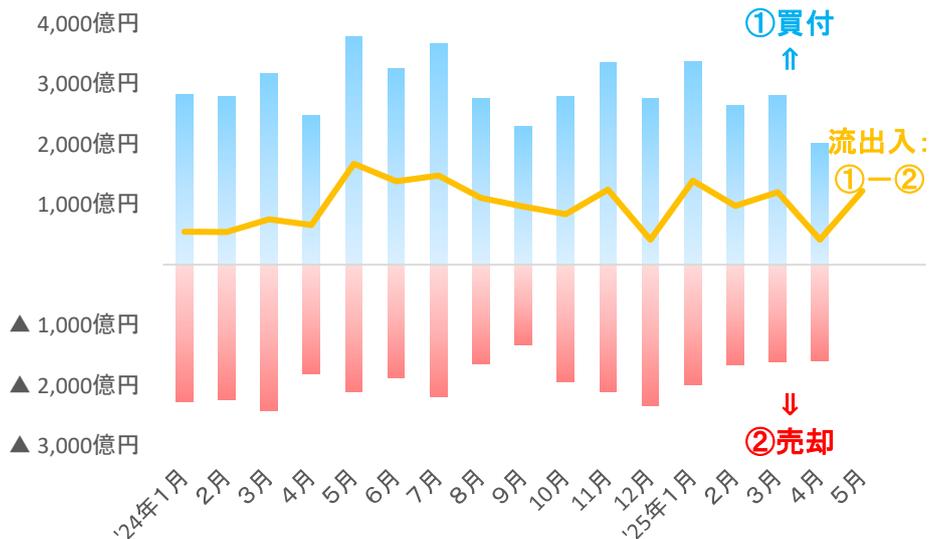
5月は、月を通じて米関税政策に対する警戒感がさらに後退したことが追い風となり、世界的に株価が上昇した。外国為替市場でも、値動きの激しい展開となったが月間でみるとやや円安に振れた。それに伴って、多くの外国株式ファンドの基準価額が大きく上昇した。実際、5月に資金流入が大きかった外国株式ファンドの5月の収益率は、インデックス型(赤太字)、アクティブ型(青太字)問わず7%を超える高パフォーマンスとなった【図表2】。

こうした中、5月の外国株式ファンドの資金流入を見る限りでは、インデックス型もアクティブ型も基準価額の上昇に伴う戻り売りは限定的で、外国株式の投資意欲は引き続き高かったことがうかがえる。ただし、米関税政策の先行き不透明感が残る中、様子見姿勢やポジション調整の売却が見られ、外国株式ファンドへの資金流入はやや鈍化したと考えられる。

バランス型とラップ口座の販売回復

また、バランス型投信については5月に1,200億円の資金流入があり、4月の400億円から大きく増加した【図表3】。4月に一部で買い控えが起き、買付が落ち込み、資金流入が減少していたが、5月には流入が急回復し、買付が再び活発になったことがうかがえる。SMA専用ファンドでも4月は資金流入が鈍化していたが、5月に回復した。バランス型ファンドと類似した商品コンセプトを持つラップ口座の販売についても、同様の傾向が確認された。

【図表3】 バランス型ファンドの買付額と解約額



(資料) Morningstar Direct より作成。SMA 専用ファンドは除外、2025年5月のみ流入のみで推計値。

国内株式は利益確定の売却の動き

その一方で国内株式ファンドは、5月に1,700億円の資金流出があった【図表4】。国内株式も外国株式と同様に、日経平均株価が月初から一時2,000円以上上昇するなど大きく上昇したが、それに伴いインデックス型を中心に利益確定売りが出たと見られる。

特に日経平均株価が3万8,000円を超えた翌営業日にあたる14日と30日には、それぞれ600億円、500億円に迫る資金流出があり、売却が顕著だった。米関税政策に対して本格的に警戒される前、2月以前の日経平均株価の水準が3万8,000円台だったこともあり、この水準を意識して売却する個人投資家が多かったと推察される。

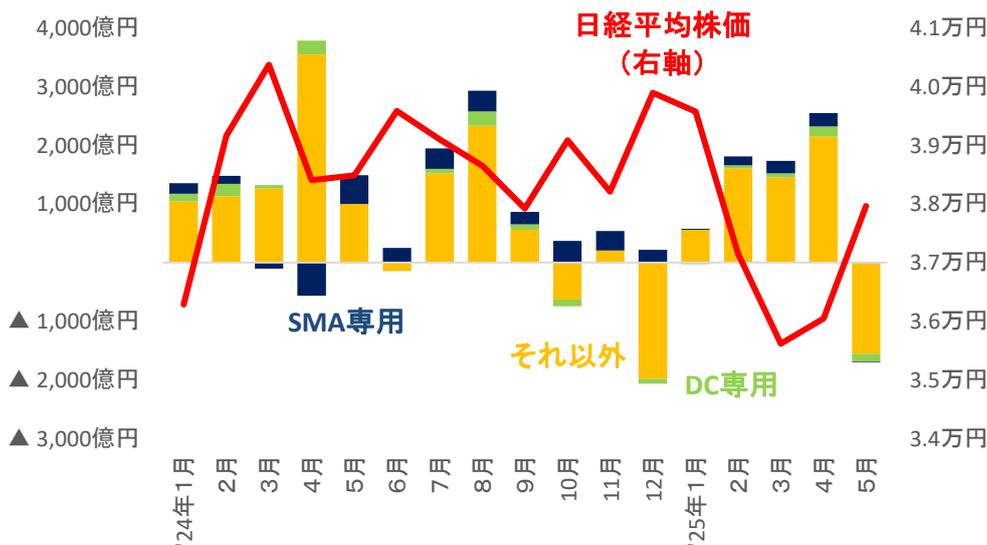
このように国内株式ファンドの資金流出が影響し、5月はファンド全体で見ると9,000億円の資金流入となり、4月の1兆2,600億円から3,600億円減少し、2025年に入って初めて1兆円を下回った。

DCでも利益確定売りが顕在化

なお、国内株式ファンドについてはDC専用（緑棒）に限っても、5月に100億円の資金流出があった【図表4】。過去にも、国内株式が上昇した2024年10月、12月なども流出超過に転じており、確定拠出年金口座もその他の一般口座と同様に利益確定売りが出ている傾向が見受けられる。

投信市場全体で見ると、インデックス型の外国株式ファンドの残高が積み上がっているなど、長期投資が根付きつつある。しかし、国内株式ファンドに限ると確定拠出年金口座であっても株価の変動に応じた売買が目立ち、長期投資がまだ十分に根付いていないようだ。

【図表4】 国内株式ファンドの資金流出入



(資料) Morningstar Direct より作成。2025年5月のみ推計値。

半導体関連ファンドのパフォーマンスが急回復

5月は、半導体関連に注目したテーマ型の外国株式ファンド（赤太字）が総じて高パフォーマンスとなった【図表5】。ただし、これらのファンドは、過去1年間では収益率が二桁のマイナスに落ち込んでいた。外国為替市場で1ドル156円台だったのが足元143円台になるなど1年間で円高が進行したことも逆風となったほか、半導体関連株自体も一部のAI関連銘柄を除き、冴えない展開が続いたが、5月は株価が急反発した。

【図表5】2025年5月の高パフォーマンス・ランキング

	ファンド名	運用会社 (略称)	5月の 収益率	過去1年 収益率	純資産 5月末時点
1位	野村世界業種別投資シリーズ(世界半導体株投資)	野村AM	20.8%	0.4%	3,999億円
2位	インベスコ 世界ブロックチェーン株式ファンド	インベスコ	19.2%	14.5%	225億円
3位	インベスコ 世界ブロックチェーン株式ファンド(予想分配金提示型)	インベスコ	19.1%	14.3%	68億円
4位	グローバル仮想世界株式戦略ファンド	SBI岡三	18.6%	4.6%	82億円
5位	半導体関連 世界株式戦略ファンド	三井住友トラスト	18.4%	-11.9%	2,155億円
6位	世界半導体関連フォーカスファンド	SBI岡三	17.7%	-18.2%	1,296億円
7位	<購入・換金手数料なし>ニッセイSOX指数インデックスファンド(米国半導体株)	ニッセイAM	16.8%	-13.3%	353億円
8位	インデックスファンドSOX指数(米国上場半導体株式)	日興AM	16.8%	-13.7%	70億円
9位	楽天・プラス・SOXインデックス・ファンド	楽天投信	16.7%	-13.1%	137億円
10位	アジア半導体関連フォーカスファンド	SBI岡三	15.6%	---	228億円

(資料) Morningstar Direct より作成。2025年5月末残高が10億円以上のETF、ブル・ベア型以外のファンドでランキング。

本資料記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と完全性を保証するものではありません。また、本資料は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。